

特集 ★ 日本酒フェア 2008

一度で二度おいしい！日本酒ファン待望のスーパーイベント。「公開きき酒会」＆「全国日本酒フェア」のダブル開催で、今年も大盛況

日本酒ファン待望のスーパーイベント「日本酒フェア 2008」が、6月11日、東京池袋の池袋サンシャインシティで開催されました。(独法)酒類総合研究所・日本酒造組合中央会共催の「平成19酒造年度全国新酒鑑評会公開きき酒会」＆日本酒造組合中央会単独主催の「第2回全国日本酒フェア」という“一度で二度おいしい”ダブル企画で、会場は今年も大盛況。1日の模様をレポートします。



平成19酒造年度新酒鑑評会公開きき酒会の模様(上)と第2回全国日本酒フェアの会場風景

★ より楽しく、より広々と充実度アップ



オープニングのテープカットを行う酒類総研の平松理事長(左から2人目)と辰馬会長(中央)、土井清酒技術委員長(左端)、佐浦需要開発委員長。右端は日本酒のPRキャラクター・おちょこくん

昨年、業界初の試みとして実施され、日本酒ファンや酒類関係者などの間に大きな反響を巻き起こした「日本酒フェア」。(独法)酒類総合研究所(以下、酒類総研という。)と日本酒造組合中央会(以下、中央会という。)の連携により、ほぼ1年かがりの準備作業を経て開催されるこのイベントは、文字どおり酒造関係者の総力を結集した需要開発事業の柱に位置づけられます。

今回の「日本酒フェア 2008」では、前回の反省点などを踏まえて、開催時間を大幅に拡大したほか(「公開さき酒会」が10時～20時、「全国日本酒フェア」が11時～20時)、「公開さき酒会」を2部入替制(第1部＝流通・料飲店・酒造業界関係者対象、第2部＝一般消費者対象)とするなど、企画の一部を改善。「全国日本酒フェア」の会場も別フロア(サンシャインシティ文化会館4展示ホール。「公開さき酒会」の会場はサンシャインシティ・ワールドインポートマート4F展示ホール)に移されて前回の倍近い広さとなり、来場者によりゆっくりとイベントを楽しんでもらうための工夫が随所に施されました。

多数のメディア関係者が注目する中、午前10時45分から行われたオープニング・セレモニーでは、中央会の辰馬会長と酒類総研の平松理事長が、「このイベントは日本酒の並行複発酵と同様、2つの発酵イベントが同時進行する。最高の酒造技術の饗宴と、気候風土の違いから生まれる微妙な文化の多様性をじっくりと楽しんでもらいたい」(辰馬会長)、「今年の全国新酒鑑評会は、どの出品酒もハイレベルで、審査員泣かせの鑑評会となった。今日は存分にさき酒して、日本酒への理解を深めてほしい」(平松理事長)と、それぞれ主催者代表の挨拶。続いて平松理事長と辰馬会長、土井清酒技術委員長、佐浦需要開発委員長、さらにはおなじみの日本酒キャラクター・おちょこくんも加わってテープカットを行った後、夜の8時までパワー全開のイベント風景が繰り広げられました。



メディア関係者も熱い注目

平成 19 酒造年度全国新酒鑑評会公開きき酒会

★ “取れたて” 吟醸酒の最高峰 476 点を一挙公開



若者も女性も外国人もメディアの人も、みんな真剣に、楽しげにきき酒中。酒類総研特製のオリジナル吟醸酒も人気。

我が国唯一の全国規模の清酒鑑評会として、酒類関係者や一般の日本酒ファンから絶大な信頼と注目を集める全国新酒鑑評会。平成 19 酒造年度の鑑評会では、総出品点数 957 点（山田錦以外の米を主原料とした第Ⅰ部が 129 点、山田錦を主原料とした第Ⅱ部が 828 点）のうち 487 点が入賞、うち 255 点が金賞を受賞しています。その入賞酒のほぼ全点（476 点、うち金賞酒 253 点）をまとめて一挙に公開したのが「公開きき酒会」。

従来、酒類総研のある東広島市で開かれてきた同会が、開催地を東京に移して、酒類総研と中央会の共催となったのが昨年の「日本酒フェア 2007」から。“取れたて” 吟醸酒の最高峰を網羅したイベントだけに、今年も前年同様の大混雑が予想されましたが、今回は入場を 2 部入替制にしたことで、地域別 8 ブロックに整理された会場内は、ほどよい熱気が漂う理想的なきき酒モード。来場者からも「すっきりしてとてもきき酒しやすくなった」と好評の声が多く、一般消費者を対象とした第 2 部では、若い女性やカップル、外国人などが寛いだ雰囲気の中で楽しげにきき酒して回る姿も目立ちました。

情報サービス用に設けられた質問コーナーの担当者の話では、「地域別の酒質の違いに関する質問が多い」とのことで、現代の消費者にとって日本酒の地域性は最大の注目ポイントとなっている様子。また、酒類総研が試験醸造した吟醸酒の特別展示も話題を集めました。

第2回全国日本酒フェア

★ 百花繚乱の出展企画で消費者コミュニケーション



おおぜいの来場者でにぎわった第2回全国日本酒フェア。各県さまざまなアイデア企画で日本酒の多様性をアピール

中央会が単独で主催した「第2回全国日本酒フェア」には、全国44都道府県の酒造組合（連合会）のほか、日本酒造青年協議会、日本酒造協同組合連合会など関係4団体が出展。各県自慢の吟醸酒や純米酒、本醸造酒、さらには日本酒ベースのリキュールやお燗酒などを含めて試飲と販売を行い、日本酒文化の多様性、地域性をアピールしました。

出品酒の展示・販売スタイルも出展者それぞれで、中には鑑評会風のミニきき酒会を企画したり、和装の女性担当者を置いて華やかさを演出したりといったアイデアで自県の酒を印象づける県も。ブースのディスプレイも、紺の暖簾や提灯を飾った居酒屋風、カラフルな色調が鮮やかなモダニズム風など、まさに百花繚乱の趣で、来場者は、日本酒横丁風にデザインされた会場をめぐり歩きながら、蔵元の商品説明に耳を傾けたり、好みの銘柄を冷酒とお燗で飲み比べたりして、閉会時間ぎりぎりまで「日本酒三昧」のひと時を楽しんでいました。

この日、来場者の中からは、「蔵元の人から直接説明をしてもらえたのがよかった」「日本の醸造文化の奥深さがよく理解できた」といった感想が聞かれましたが（来場者の感想は4頁）、出展者のほうも「販売よりも県産酒のPRを主目的に参加したが、若い女性の来場者が多いこと、しかも日本酒についてよく知っていることに驚いた。質問も熱心で、目的どおりの効果が得られたと思う」「消費者と直接対話することは我々にとっても大切な勉強。最近の女性は意外に伝統回帰志向が強いことがわかった」といった声が多く、消費者コミュニケーションの向上という点で収穫の大きな1日となったことをうかがわせました。

★ 「来てよかった！」 来場者の感想クリッピング

最後に、会場で聞いた来場者の感想から主なものをまとめてみました。

【平成 19 酒造年度全国新酒鑑評会公開きき酒会の会場でー】

- ・ 今年の酒の出来はきれいな味のものが多いという印象を受けた。東広島市の酒類総研で開かれた製造技術研究会にも行ってきたが、その印象は変わらない。一般公開が東京に移ったおかげで、日にちを空けて、再度きき酒できるようになったことはとてもありがたい。これだけの点数だと、一回だけでは全体の印象を把握しにくい。時間を置いて2度、というのが肝心なところだ。(第1部、蔵元関係)
- ・ ここ数年、金賞の味はこれ、といった固定的な基準が弱まってきているように感じる。個性的な酒でもいい酒はいいということを認める、幅の広い審査方針を感じる。酒造りに携わる者にとっては歓迎すべき変化だと思う。(同前)
- ・ 日本酒の消費がどうのこうのと言われるが、少なくとも私の店（和風レストラン）では日本酒の売り上げが上がってきている。今日きき酒した出品酒も、金賞受賞酒だけでなく、甲乙つけがたいレベルの高さで、清酒メーカーの真剣さが感じられる。これから、安易な方向に流れず、こういう酒を造り続けてほしい。職業柄、東広島市のころから毎回参加しているが、会場が東京になってとても助かっている。(第1部、料飲店関係)
- ・ 後味のすっきりした日本酒が好き。全体に私好みのお酒が多いように感じた。とても贅沢なイベントで、こんなのは他にない。もちろん来年も参加する(第2部、20代女性)
- ・ 昨年に比べ会場がすっきりして、とてもきき酒しやすくなった。(第2部来場者、30代男性)



【第2回全国日本酒フェアの会場でー】

- ・ 友だちに誘われて来てみた。とにかく、地域性の多彩なことに驚いた。日本酒についてはそれほど詳しく知っているわけではないが、日本の醸造文化の奥深さということとはとてもよく理解できた。お世辞でなく、来てよかった。(30代女性)
- ・ もともと日本酒が大好き。これまで北日本の酒ばかり飲んできたので、今日は関西や九州各県のブースを中心に回ってみた。日本酒好きには文句なしのイベント。(20代カップル男性)
- ・ 彼が日本酒好きなので付いて来た。いっぱい見て回って疲れたけれど、楽しいイベントだった。女性向けを意識したものより、正統派日本酒のほうが私は好き。(20代カップル女性)
- ・ 各県の蔵元の人から直接説明をしてもらえたのがよかった。とても丁寧な説明で、自分たちの造った酒に誇りを持っている様子を好ましく感じた。(40代女性)
- ・ ジョン・ゴントナー氏（アメリカ人の日本酒ジャーナリスト）のホームページで日本酒の勉強をしている。こうして各県のさまざまな酒を実際に試飲させてもらうと、それぞれの違いも共通点もよくわかる。特に古酒が興味深い。
- ・ インターナショナル・ワイン・チャレンジの金賞受賞酒（日青協ブース）が面白かった。日本酒が海外で高く評価されているのは日本人として誇らしい。(30代男性)



各県組合・関連団体の出展風景 Part1



北海道



青森県



岩手県



秋田県



宮城県



山形県



福島県



茨城県



栃木県



群馬県



埼玉県



東京都



神奈川県



千葉県



山梨県



長野県



新潟県



福井県



石川県



富山県



静岡県



愛知県

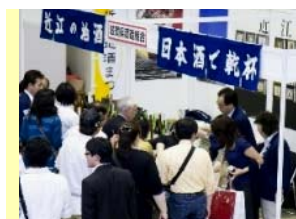


三重県



岐阜県

各県組合・関連団体の出展風景 Part2



滋賀県



京都府



大阪府



奈良県



和歌山県



兵庫県



岡山県



広島県



鳥取県



島根県



山口県



徳島県



香川県



徳島県



高知県



佐賀県



長崎県



大分県



熊本県



日本酒造青年協議会



日本酒造協同組合連合会



長期熟成酒研究会



日本酒ライターネットワーク